

平成26年8月13日

内閣総理大臣
安部 晋三 殿

沖縄国際大学
理事長・学長 大城 保

普天間基地を使用する航空機の即時飛行中止の要求

2004年8月13日午後2時15分頃、本学本館（1号館）ビルに米海兵隊所属のCH-53D型ヘリコプターが墜落・炎上した。この事件により、本学の中核である本館が使用不能となり、大学の機能が麻痺する事態に陥った。この理不尽、不条理極まりない事件は大学のみならず、すべての県民、すべての国民を恐怖に陥れ、メディア報道により世界を震撼させた。

事件直後から、本学は理不尽で悲惨な事件に対し米軍をはじめ関係諸機関に強く抗議し、飛行中止を求めてきた。しかし、10年経った今も本学の上空をCH-53D型ヘリコプターが飛行し、加えて騒音の激しさと欠陥度が高いと言われるMV-22オスプレイが上空を飛行しているが、そのような現実を断じて許せるものではなく、遺憾至極である。

「安全、安心、平和」は思想、信条を超えて万人の求めるところであり、大学は静かな環境の中で勉学・研究をする場である。例え、いかなる国際政治論、安全保障論で飛行を正当化しても、大学の平穏・安寧を脅かし、生命すらも脅かす飛行は大学にとって認められない。

本学は、地域に根ざし、世界に開かれた大学として、地域と経験を共有しつつ連携して、「安全、安心、平和」のために、普天間基地を使用する航空機の即時飛行中止と普天間基地の一日も早い閉鎖・返還を要求する。

「普天間基地を使用する航空機の即時飛行中止要求」送付先リスト

	職 名	氏 名
1	内閣総理大臣	安倍 晋三
2	内閣府特命担当大臣 (沖縄及び北方対策防災)	山本 一太
3	防衛大臣	小野寺 五典
4	外務大臣	岸田 文雄
6	駐日米国大使	キャロライン・ブービエ・ケネディ Caroline Bouvier Kennedy
7	在日米軍司令官	サルバトーレ・A・アンジェレラ Lt Gen Salvatore A. Angelella
8	在日米軍沖縄地域調整官	ジョン・E・ウィスラー Lt.Gen. John E. Wissler
9	普天間海兵隊航空基地司令官	ジェームス G. フリン Col. James G. Flynn
10	沖縄県知事	仲井眞 弘多
11	沖縄防衛局長	井上 一徳